

## 古文書と花押

中 林 幸 夫

（会員・香川県国分寺町）

各地の歴史資料館等で、古文書を見るたびに、文章の内容よりも墨跡の達筆さに感心する。

昔の人は現代人の我々のように学校教育を受けたわけでもなく、また、日常、新聞や本を読むわけでもないのに、どの文書を見ても、漢字の使い方から字のくずし方まで、現代人をしてのくものばかりで、下手と思えるような文書にお目にかかったことがない。

現代人でさえ、漢字がわからず手紙等は、あて字、誤字で、ごまかしの文書を書き、且つ筆書きでなくペン書きの字でさえ、あまり人に見せられないカナクギ流の人が多いのに、何故昔の人は、筆書きで訂正もなく、上手な文書を残しているのだろうか。

辞書もない時代に漢字を多く知っていることに不思議

さを感じる。

古文書の多くは、主として役人や武士間のものが多いが、武士の誰れでもが、すら／＼と読めたかも疑問に思える。

それというのは、刀はあっても一般家庭に筆、墨、硯、紙等が常備していた様子がないからである。一般に文字が読めない時代なら、また、字を書く必要もないから当然である。

文書を書くのは、特殊な階層の人たちの社会だけだったのだろう。

農民等は、手紙を出すような離れた家族もないし現代のように役場等への届出書を書くこともなかったから字が書けなくてもさほど不便はなかったのではなからうか。

結婚、葬式等の祝儀袋等は何時頃から始まったのだろうか。

昨今でさえ、生まれてから何百、何千回と書いてきた自分の名前を書くとき躊躇する人が多いのに、昔の人は何故、誰れでもが上手に文書や名前を書いたのだろうか。

私は、代筆する書士がいて読み書きを指導していたと



読しなければならなかった。

そこで花押のように筆書きの署名、「**宗**」を見ていると渡辺安次「ヤスニ」をくずして書いてあることがわかり、意味がわかると、そっくりの真似ができた。

このことから、宗麟の花押について、私なりに真似て書いていると「上の人（または人の上）」と書いてあるように思えてきた。



宗麟の署名と花押

「上の人」と解読した？ことは間違いのようにも思うが、宗麟ならびつたりの意味ではないだろうか。

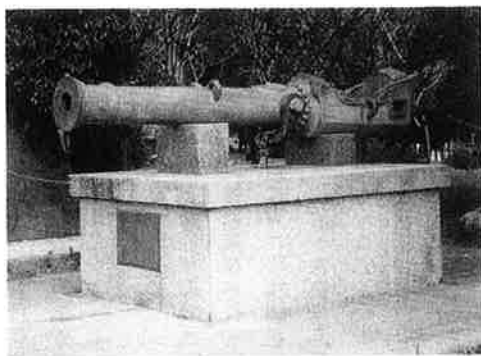
（本当の意味を知っている方は教えて下さい）

宗麟の花押で、「上」のところが「上」となっているものがあるが、これは他の人が書いたとも思われる。

古文書を読むとき、本人の手書きか、代筆かによっては、文章のニューアンスが異なっていると見なければならぬ。

古文書の署名、花押は、もう少し研究する余地があるような気がする。

終戦と同じ陽の下雲の下 幸夫



天正4年ポルトガルから宗麟に贈られた我が国初の大砲（複製・臼杵城址）